

青年期における「蛙化現象」の再定義と心理的背景
—SNS 時代の情報処理特性と恋愛感情の変容に着目して—

2231117 矢野真菜（林香織ゼミ）

要約

本論文では、近年若者の間で広く使われるようになった「蛙化現象」という言葉が、本来の心理学的意味から大きく変化している点に着目し、「現代の『蛙化現象』は、自己肯定感の低さによる拒絶ではなく、『自律的価値判断に基づく線引き行動』から行われるものである」という仮説を立てた。

仮説の検証には、文献調査とアンケート調査を用いた。

本研究の結果、以下の3点が明らかになった。

- 1、青年期世代が用いる「蛙化現象」は、自己肯定感の低さによる拒絶反応ではなく、自律的な価値判断に基づく早期の線引き行動として理解できる。
- 2、青年期世代はコンテンツの種類に応じて情報処理を切り替えており、短尺動画では興味に基づく取捨選択が行われる一方、長尺動画では物語理解を重視した視聴が選ばれる傾向がみられた。
- 3、「蛙化現象」の意味変化には、SNS を中心とした情報環境の影響が関係している可能性がある。

今後の展望として、藤澤が定義する本来の「蛙化現象」と SNS で広まった「新蛙化現象」が同一の語で語られている現状は、精神的に苦しんでいる当事者の悩みが十分に理解されないことがあるため、若者の対人関係理解や心理的支援の場においても、両者を明確に区別することは重要な課題である。

また今回、青年期世代の恋愛観と SNS の使用方法の関係性から研究を行ったが、回答者の主な属性が江戸川大学のマス・コミュニケーション学科の学生であることから、SNS の使用方法に偏りが生まれている可能性がある。そのため、属性の異なる若者層に同様の傾向が見られるかどうかは、今後さらに検討する必要がある。